TOP INTERVIEW

理事長インタビュー

志を受け継ぎ、前へ。

新体制においても
地域金融機関としての使命を
果たしてまいります。

21年ぶりの理事長交代となり、新体制のもと新たな歩みを始めた広島市信用組合。故山本明弘理事 最高顧問の思いを受け継いだ中野健司理事長に、自らの経営方針と今後の展望についてうかがいました。

揺るぎない経営で地域の活性化に貢献。

昨今の経済情勢についてどのように見ていますか?

中東情勢の緊迫化による原油価格の高騰などを要因に物価高が続いており、日本経済は不安定な要素が多く残っています。とりわけ中小企業・小規模事業者の多くは資材の調達難により売上が思うように上がらないことに加え、原材料費や人件費も上昇し収益を圧迫しています。また、広島県の基幹産業である自動車関連業は、世界経済の動向に左右されやすく、その業況は広島全体の景気にも大きく影響します。現在、広島駅周辺の再開発事業が続いており、観光やサービス業を中心に回復の兆しも見られますが、先行きには引き続き注視していく必要があります。

私は2026年6月に理事長に就任しましたが、そこには故山本理事 最高顧問の力強いバックアップがありました。さあこれからという矢先の訃報に接し、私自身、地元広島への思いと、これまで一貫して続けてきた本業特化と現場主義の経営方針を必ず引き継いでいく決意を新たにしています。厳しい経済環境ではありますが、地域金融機関の役割は一段と重要性を増しており、資金繰りに悩む中小企業・小規模事業者のニーズに応え、地域を支える使命を果たさなければならないと考えます。

業績は好調のようですね。

おかげさまで、令和8年度上半期決算において経常収益は23期連続の増収となり、経常利益、当期純利益ともに過去最高を更新しました。このような好調な業績をあげることができたのは、「預金」と「融資」の本来業務に特化したシンプルな経営を愚直に継続してきたからこそです。また、バルクセール(不良債権の一括売却)も引き続き実施し、資産の健全性向上にも努めています。これらの経営方針は外部からも高く評価されており、株式会社日本格付研究所(JCR)の長期発行体格付において「A+」(シングルAプラス)の格付を4年連続で取得しています。これは協同組織金融機関である信用金庫・信用組合の中でトップに位置しています。さらに、当組合のビジネスモデルは各方面で注目されており、今年も多くの金融機関の視察に対応しています。こうした高い評価を糧に、今後も一層の研鑽に努め、地域に貢献してまいります。

覚悟を持って正面から中小企業・小規模事業者を支える。

「融資」こそ使命。その本質は何ですか?

地域経済を支えているのは地元の中小企業・小規模事業者であり、お客さまの資金ニーズに応え、応援していくことが地域金融機関である当組合の最大の使命です。中小企業・小規模事業者の多くは原材料費の高騰や人手不足などの要因により、日々の資金繰りに苦慮されています。このようにお客さまが困っている時こそリスクテイクし、手を差し伸べることが重要です。どのような状況においても、常に寄り添い、何を必要としているかを見極め、覚悟を持って正面から向き合ってこそ真のパートナーとして認めていただくことができます。お客さまとのより強固な信頼関係を築くためには、こうした姿勢を貫き、使命を全うする強い信念が不可欠と考えます。

変わらないスタイルとして、徹底した現場主義があげられます。

当組合の「会って話せる」という現場主義は最大の持ち味であり、他の金融機関では簡単に真似のできない独自のスタイルであると確信しています。昨今はバンキングアプリやネットバンキング等非対面での金融サービスが拡大していますが、当組合は現場を歩いて、歩いて、歩き抜き、お客さまのもとに足繁く通い、常日頃から顔を合わせることを大切にしています。こうした積み重ねをしているからこそ小さな変化に気づき、ご要望にもいち早く応えることができるのです。「フットワーク」と「フェイス・トゥ・フェイス」を活かしたこの営業スタイルは今後も変わることはありません。

リニューアルでお客さまにとってより身近な金融機関へ。

店舗リニューアルも継続されていますね。

お客さまに気持ちよくご来店いただき、便利で快適にご利用いただける店舗を充実させることで、より身近な金融機関になることができると考え、店舗リニューアルを計画的に実行しています。現在、11月16日の戸坂支店の新築移転オープンを間近に控えていますが、それ以降も新築移転や建替を検討しており、「天地・地利・人和」を念頭に置き、好条件が整えば新規出店も視野に入れています。今後も好機を逃さず、役職員一丸となって地域やお客さまとの信頼関係を築いていきたいと考えます。

コンプライアンスを大切にされていますね。

コンプライアンスは、当組合にとって一丁目一番地です。お客さまの命の次に大切なお金と、これに関わる情報を扱う金融機関にとって、コンプライアンスを軽んじることがあってはなりません。信頼を積み重ねていくことは大変ですが、失うのは一瞬です。そして、失われた信頼を取り戻すのは非常に困難です。約束を守る、非があれば素直に謝る、知ったかぶりをしない、正面突破でオーソドックスであることを基本姿勢とし、常に心に留めておかなければなりません。これからも役職員一人ひとりが襟を正し、どのような状況においても正々堂々、愚直に取り組んでいきます。

「真心」の像

職員目線の取り組みにも力を入れていますね。

職員はかけがえのない財産であり、一人ひとりが将来のシシンヨーを背負って立つ大切な存在です。そのため、当組合では働き方改革が叫ばれる以前から労働時間の管理、給与の見直し、定年延長などの取り組みを積極的に行ってきました。また、人材育成にも注力し、多様な経験を通じてそれぞれの個性や能力を伸ばすことで、組織全体のレベルアップにつなげていきたいと考えています。店舗の新築移転オープンにともない実施するローラー活動もその一環で、お客さまのもとに訪問することは営業の基本であり、現場で得られる経験は何事にも代えがたいものです。こうして店長をはじめ各職員が、これまでに培った経験や知識を部下や後輩に伝え、将来にわたって地域に貢献するために必要な現場主義の営業活動を継承しています。さらに、融資勉強会や外部研修などの積極的な実施および参加、男性職員の育児休暇の奨励といった福利厚生の充実、デジタル化・IT化による業務効率の改善など、あらゆる面で職員が働きがいを感じる職場環境を作っていきます。

朝のミーティング

ローラー活動

地域経済の支援に、楽な道のりはない。

今後の目標を教えてください。

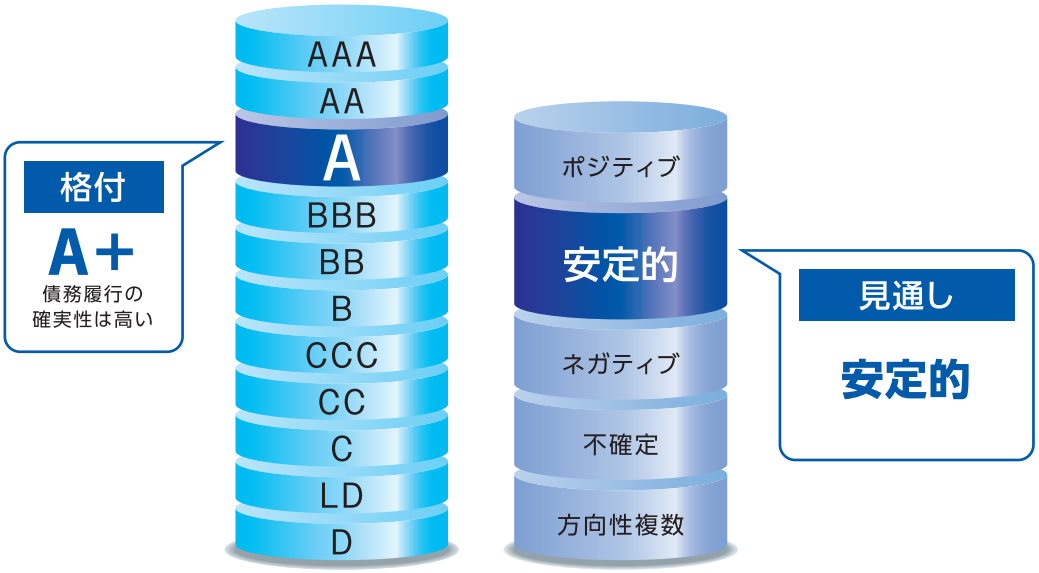
戸坂支店の新店舗

金融業界は「金利のある時代」へ大きく転換し、預金獲得競争が激しさを増しています。また他業種からの参入、ネット銀行の台頭などによりさまざまな商品が販売されると同時に金融サービスが非対面で受けられるようになり、たいへん便利にもなりました。こうした状況ではありますが、当組合はブレずに本業特化と現場主義の経営方針を愚直に継続してまいります。投資信託や生命保険の販売には目もくれず、預金と融資の本来業務にひたすら取り組むこと。お客さまのもとへ訪問し、直接対話し、課題と向き合い、真摯に対応すること。AIには決して真似のできないこうした地道な営業活動こそ、お客さまの安心につながり、取引の深耕にもつながると確信しています。故山本理事 最高顧問が今年のスローガンとして掲げた「継続に楽なし」は、継続することの難しさを説いたメッセージとして引き継いでいきます。役職員一人ひとりが地道に努力し、日々の仕事に真摯に向き合い、当たり前のことを当たり前に続ける。これは決して楽ではありません。しかし、何があっても当組合の経営の根幹であるコンプライアンスの徹底、ガバナンス体制の強化を基本とした本業特化と現場主義の経営方針は不変であり、我々はこれを続けていきます。これを強みに経営基盤を一層強固にし、地域の活性化に貢献するよう役職員一丸となって邁進してまいります。

〈 格付「A+」継続取得 〉

当組合は、令和8年5月に格付機関である株式会社日本格付研究所（JCR）より
長期発行体格付「A+」（シングルAプラス）、格付の見通し「安定的」を継続取得しました。

1	格付機関	株式会社日本格付研究所（JCR）
2	格付対象	長期発行体格付 ※長期発行体格付とは、債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。
3	格付	A+（シングルAプラス） 見通し「安定的」 ※A（シングルA）は、株式会社日本格付研究所の11段階の格付等級の上から3番目にあたります。 ※格付の見通しは、長期発行体格付が1～2年の間にどの方向に動き得るかを5つに区分して示すものです。
4	取得の目的	外部からの客観的な評価である格付を取得し、お客さまや組合員の皆さまにディスクローズすることで、透明性をもった経営を進め、財務内容の健全性をより理解していただき、信頼性を高めることを目的としています。



参考：JCR長期発行体格付の定義

AAA	債務履行の確実性が最も高い。
AA	債務履行の確実性は非常に高い。
A	債務履行の確実性は高い。
BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来、債務履行の確実性が低下する可能性がある。
BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。
B	債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。
CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
LD	一部の債務について約定どおりの債務履行を行っていないが、その他の債務については約定どおりの債務履行を行っているとJCRが判断している。
D	実質的にすべての金融債務が債務不履行に陥っているとJCRが判断している。

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、＋（プラス）もしくは－（マイナス）の符号による区分があります。